

科目名	国際関係論特別講義	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			法律学科	□必修 ■選択	
			国際学科	□必修 ■選択	
英文表記	Special lecture on international relations	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年		
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中		
ふりがな	ならおか よしたけ	実務家教員 担当科目	○	修得単位	2 単位
担当者名	檜岡 善丈	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	本講義では、教員の職務経験に基づく外交実務の現場（外務省、在外公館、総理大臣官邸等）について実例を挙げながら説明します。また、グループワークでは、SDGs（持続可能な開発目標）をテーマに取り上げて、課題設定と解決策の提案についての議論と発表を行います。				
到達目標	外交実務の現場の講義では、外務省や在外公館における職務の現状や、国際関係についての知見と理解を深めることを目標とします。また、グループワークでは、SDGsをテーマとし、グループでの議論を通じて、皆さん自身で課題を設定し、課題解決の提案を発表することを目標とします。				
授業概要	<p>国際社会の動向は様々な面で私たちの社会・生活に影響を及ぼしており、遠いようで身近なテーマです。外務省、在外公館、総理大臣官邸など、教員自身の職務経験に基づく外交実務の現場について実例を挙げながら説明します。国際関係についての知見と理解を深めることは、将来国際分野で働くことに関心のある方だけでなく、これから社会で活躍される皆さんにきっと役立つと思います。</p> <p>グループワークでは、まずはSDGsの17の目標を学習し、続いてグループでの議論を通じて皆さん自身で課題を設定し、課題解決の提案内容をまとめ、発表していただきます。課題設定と解決策の提案は、国際関係分野にとどまらず、社会貢献を考える上で重要な手法であり、本講義を実践の機会にできればと思います。</p>				
授業計画					
第1回	イントロダクション（自己紹介、講義の概要）				
第2回	外交実務の現場（導入）				
第3回	グループワーク（導入：SDGs）				
第4回	外交実務の現場1（外務省①）				
第5回	外交実務の現場2（外務省②）				
第6回	グループワーク1（課題設定）				
第7回	外交実務の現場3（在外公館（総論））				
第8回	外交実務の現場4（在外公館（各論：トルコ））				
第9回	グループワーク2（解決策の議論①）				
第10回	外交実務の現場5（在外公館（各論：英国））				
第11回	外交実務の現場6（在外公館（各論：レバノン））				
第12回	グループワーク3（解決策の議論②）				
第13回	外交実務の現場7（内閣総理大臣官邸）				
第14回	外交実務の現場8（内閣官房、その他）				
第15回	グループワーク4（課題設定と解決策の発表①）				
第16回	グループワーク5（課題設定と解決策の発表②）・まとめ				
授業時間外の学習	グループワークでは、課題設定や解決策の提案についてのグループでの議論・発表に向けた下調べや発表内容の準備が必要です。				

履修条件 受講のルール	授業は月1回を目途に土曜日に行います。授業への参加を重視しますので、日程の調整をお願いします。国際関係論を受講していることが望ましいですが、受講してなくても問題ありません。
テキスト	適宜レジュメを配布します。
参考文献・資料	同上
成績評価の方法	【授業への参加度(50%)、グループワークでの議論・発表(50%)】 授業での質問や発言など授業への積極的な参加(50点)、グループワークでの議論・発表内容(50%)を基本的な評価基準とします。 *出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	要望に応じ、授業がある週の土曜日に設けます。
成績評価の基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	私は、1996年に外務省に入省し、外務本省での勤務の他、4つの在外公館(在トルコ大使館、在英国大使館、在ウズベキスタン大使館、在レバノン大使館)や内閣総理大臣官邸等で25年以上にわたり外交実務に携わり、今も外務本省で勤務している現役の職員です。本講義では、外交実務の現場で実際に行われている仕事の内容をお話し、国際分野で働くことの面白さをお伝えできればと考えております。
学生へのメッセージ	私は秋田市出身です。故郷の秋田・ノースアジア大学で国際関係論を学ぶ皆さんの視点から、お役に立てる内容の講義ができればと思います。外務省や在外公館等での勤務だけでなく、15年以上の外国生活の経験談もお話できますので、将来国際分野で働くことを考えている方、国際関係に関心のある方に積極的に参加していただければ幸いです。